

落を初め大部分脱毛す。眼疾患に際し頭髮の脱落を併發するものに交感性眼炎、特發性葡萄膜炎、急性非化膿性脈絡膜炎(原田氏)、帶狀「ヘルペス」等あり。本例は初め全身症状を伴ひ、發病急性にして經過慢性なる點、視神經炎を初發し網膜炎、網膜剝離、硝子體混濁、虹彩毛體膜炎を發せる點は原田氏の脈絡膜炎に似たるも、第一眼の發病後約7,8週間に第二眼に起りし點、患者が第一眼の摘出を拒みし爲摘出せざりしが各種の療法が無効に終らんとする點竝に起交感眼に見らるる結核様結節を第一眼の虹彩に多發せる點等よりして甚だ稀なるものなれども恐らく全眼球炎より起りし交感性眼炎ならんを信す。

追 加

高橋、藤田、木村氏は同様に頭髮脱落を伴ひし葡萄膜炎の各1例を追加す。

15. コーツ氏病の1例

林 雄 造 君

演者は22歳の男子の左眼に見たるコーツ氏病の一種なる多發小血管瘤を伴ふ一種の網膜變性症の1例を報告し本病の本態に關する諸家の説を述べ原因の速に闡明にせられんことを希望せり。

16. 網膜中心動脈の痙攣

藤 田 秀 太 郎 君

52歳の男、1箇月以來折々左眼に一過性の失明を來す云ふ、其の間僅に2,3分に過ぎれども其の間左眼は全く見えず、日に1,2回乃至數回の發作あり。睡眠不足の翌日若くば氣分勝れざる時に多きが如し。余は恰も其の發作中に眼底を検査するの好機を得て明かに網膜中心動脈の痙攣に原因することを確めたり。始め何等變状無き眼底をのぞきつつある間に先づ上鼻側動脈に次で他の動脈に及んで狭小しつつ或るものは全く白條化し或るものは内腔にチギレチギレになれる數箇の血柱ありて徐々に前進しつつある状態にて、その他靜脈管腔も空虚になり乳頭蒼白其の境界不明、之に近き周圍の網膜も潤濁せる様、全く網膜中心動脈の「エンボリー」と酷似し居れり。以上の變化は1分も出ずして再び復舊し以前の健康状態に返れり。以上の所見は到底他の原因を以て説明する事能はず。歐洲に於てHarbridge 其他2,3氏之と類似の報告あり。(鈴木得三記)

第四回岡山皮膚科泌尿器科地方會記事

大正15年10月30日岡山醫科大學皮膚科教室にて開催、演說抄録を次に掲載す。

1. 強度の沃度疹

井 手 又 藏 君

53歳男子、脊椎「カリエス」にて入院治療中「ヨードホルマリン」10瓦宛約60日間服用し居りし處、20日前より項部、頸部、額部、左右前腕、左右上腿に多數の結節、潰瘍發生せり。依て沃度疹の診斷の下に(尿中沃度反應強陽性、マ氏反應陰性)即日沃度劑の服用を中止し生理的食鹽水の靜脈内注入8回(隔日)及び結節潰瘍には生理的食鹽水又は硼酸水電法を施せしに約27日にて殆ど全快せり。

2. 皮膚疣状結核の1例

荒 田 一 郎 君

山本某男19歳商、初診大正15年7月6日。

左側頸部に手掌大の暗赤色の病竈あり。是は4年前より存在すといふ。自覺的には多少癢痒を感じるのみ。切片を取りて鏡檢せるに定型的の結核病竈あり。

3. 顔面に來れる癩風の1例

荒田一郎君

廣津某男 24 歳學生，初診大正 15 年 9 月 20 日。

癩風の顔面に來るは稀なり。この患者は腹部及び胸部は冒されずして兩頰部に痒疹を伴ひて鱗屑を有する粟粒大乃至豌豆大の白色の斑點數多存在し、同時に頭部にも同様のものあり。

4. 限局性鞏皮症の1例

荒田一郎君

龜山某女 15 歳學生，初診大正 15 年 9 月 1 日。

右上膊の外側に邊縁暗紫色，中央部褐色にして光澤を有し萎縮性の病竈あり。弾力硬を有す。

5. 膀胱炎症狀の主兆を呈せし腎臟水腫の1例

小池藤太郎君

59 歳の女子，數箇月前より頑固なる膀胱炎の症狀に惱みしもの，検査の結果右側腎臟水腫に基因せることを知り之に腎摘出術を行へり。蓋し患腎機能の障碍稍々高度なるに反し他側姉妹腎の官能狀態全く健康なるを知りしが故なり。術後経過良好，膀胱炎症狀亦 2 週餘日にして全く去れり。

6. 「プロームストロンチウム」と濕疹

小池藤太郎君

本號治療欄參照。

7. 「ヘルペス」接種後の角膜竝に腦の組織的研究

江原猪知郎君

原著に譲る。

8. 纖維素尿の2例

江原猪知郎君

第 1 例 大森某男 38 歳 第 2 例 星賀某男 20 歳。

共に尿中に強度の纖維素を排出するものにして精細は後報す。

9. 靜脉瘤と下腿潰瘍

江原猪知郎君

患者石井某男 58 歳農。

患者は右側下肢に暗赤色に着色せる腫大さ共に潰瘍を有し、その他右下腿の上内方，右大腿の内側所々に靜脉瘤を有し、左側の大腿に鶏卵大，右側身體胸部より腹部に著明なる蛇々たる線を作れる靜脉瘤あり。本患者は入院治療に由り下腿の潰瘍は治癒せるものなり。該患者の内科的診斷は下大靜脉幹の狭窄にして、本疾患に次ぐに前述せる靜脉瘤を以てし、之に下腿に於て潰瘍を併發せるものなり。

10. 顔面播種狀粟粒性狼瘡

藤原 皓君

顔面に粟粒性狼瘡を、後頭部に蠟毒性丘疹を有せる 21 歳の男子の 1 例を擧ぐ。

11. 腎結石及び腎水腫を合併せる多發性囊腫腎

藤原 皓君

10 年前より左腎部に鈍痛を訴へし 30 歳の患者(男子)に就き X 線寫眞，腎盂攝影法等を行ひて腎盂結石及び腎水腫なる診斷の下に同側腎を露出し、其の多發性囊腫腎に合併せるものなることを認めて之に腎別出術を行へる 1 例を報告せり。

12. 皮膚科泌尿器科領域に於ける血中纖維素量に就て 藤原 皓君

纖維素定量は Gram 氏法を用ひ健康人男女 37 名に就きて檢せる結果、血中纖維素量を 0.20—0.38% (血漿内)、0.11—0.22% (血液内) とし、且其の血球容積を 31—60% とせり。而して皮膚科泌尿器科疾患百數十例に就き次の如く述べたり。

即ち從來云はれたる如く炎症乃至化膿ある場合は例へ表在性(濕疹の如き場合)のものとも雖も常に纖維素の増量を示し、黴毒に於ては第二期發疹期最も著明に増量し1.15%(血漿内)に及ぶものもあるも、第三期乃至先天性黴毒は一般に尋常價を示すもの多し。腎臟疾患特に結核性のものには著明に増加し膀胱炎、睾丸炎、陰莖癌等にも増加す。尙ほ驅黴療法としての「マリア」接種中の纖維素量の變化に就き略述せり。

13. 顔面神経麻痺を伴へる皮膚癌の1例 大道直一君

平野某女64歳農、初診大正15年6月26日。

左耳翼下方の癌腫にして、基底細胞癌なり。尙ほ顔面神経麻痺は癌の發生によりて位置的關係のため顔面神経を壓迫して生ぜるものなり。治療は「ラザウム」療法に兼めるにX線深部治療を行ふ。

14. 「トリパフラビン」と淋疾 大道直一君

「トリパフラビン」の文獻を擧げ後「トリパフラビン」の静脈内注射を施せる實驗例50例内十數例につきて表示略述する所あり。無効率に28%なり。0.5%液1回10—20cc。宛何れも數回以上注射せしむるべき副作用なし。第1例の如きは尿道注入を行はずして本劑注射に依り淋疾を快癒せしめ得たり。然れども尿道注入を併用する方安全にして治淋上の補助方法として使用し得べきものなり。

15. 「クロム」水銀と大腸菌性腎盂炎に就て 大道直一君

慢性大腸菌性腎盂炎(兩側性)に1%「クロム」水銀水溶液を4日間に總量50ccを静脈内に注射して治癒せる1例を報告せり。

16. 類「ペラグラ」症の1例 伊丹訓吾君

患者は9歳の女兒にして慢性下痢、元氣不冱、腹部膨滿、血色不冱及び四肢末梢部皮膚異常を主訴として來院せるものなるが、左側癒着性肋膜炎、慢性腹膜炎、十二指腸蟲症に加ふるに類「ペラグラ」症と思はれしを以て入院せしめ觀察せり。

局所療法を廢し食餌療法を主眼とし、殊に各榮養素の缺乏なからしめ、即ち比較的「カロリー」の充分なる普通食に加ふるに諸種「アミノ」酸含有劑たる「ホリタミン」及び「ヴィタミン」A, B, Cを更に補給せるに治療日數若干週にして比較的頑固と思はれし四肢末梢部皮膚異常輕快消失し、便は普通便1日1, 2回となり食慾大に亢進し元氣恢復せり。

17. 所謂特發性腎出血に就て 中川小四郎君

「レントゲン」深部放射により治癒せる本症の1例を報告せり。

18. 白癜風の治療 皆見省吾君

本疾患の治療は至難なるものなり。余はAxmann氏に倣ひ「コロソ」水塗布後人工太陽燈照射を應用して4例の患者に好結果を見たり。

19. 汗孔角化症の病理補遺 {皆見省吾君
藤原皓君

精細なる組織的檢索に依り、本症と汗孔竝に毛孔との關係を詳述せり。

20. 二三器械の供覽 皆見省吾君

皮膚科竝に泌尿器科に屬する諸種器械を供覽せり。